

東日本大震災支援募金 398,415 円 (4/20 現在)

## 「東日本大震災支援募金」行動を開催します！

4月1日の下市行動に続いて水戸駅南口で行います。是非参加をお願い致します。  
JRも運転を再開した水戸駅は少し賑わいを取り戻しつつあります。白衣又はユニホームで、賑やかに訴えましょう。

日時 4月21日(木) 14:00～15:00 水戸駅南口

13:45 茨城保健生協組織部集合(直接現地でもOK)

### ◇第2次宮城支援チーム(4/9～11まで)の報告会を開催します！

(関聡史さん・谷口優理子さん・山田早優子さん・益子哲也さん・秋葉昌則さん・関谷宣さん)

4/25(月)13:30～城南病院附属クリニックの外來待合 是非お集まりください。

### ◇第3次宮城支援チーム・4/26(火)午後～29(金)で出発します。

佐藤さん(城南病院 x-p 科)・柴田さん(城南病院 4 病棟)・山根さん・藤田さん(城南病院 リハ科)

### ◇福島原発事故の避難地域および周辺地域の住民が受診されたときの 医療対応のありかたについて

4/15全日本民医連理事会で、避難地域および、周辺地域の住民の方が低線量の放射線被曝を心配されて受診された際の医療対応のあり方を検討しました。4/18付A号通達457号で各県に発信します。これをもとに各事業所で整備をお願いします。全日本民医連HP(対策本部情報>福島原発事故関連)にも掲載予定です。以下、ポイントを紹介します。

#### <前提>

- ①現在の放射線量では急性障害は生じません。概ね500mSv以上の線量を短時間に受けた場合に全身倦怠感などの自覚症状や白血球の減少といった検査値の異常が生じてきます。
- ②低線量被曝による晩発性障害は数年後、あるいは数十年後に生じてくる可能性の問題であり、確率的な問題です。後年に備える目と構えが必要です。
- ③低線量被曝の問題は原爆症認定集団訴訟の教訓から明らかであり、急性被曝障害と混同させずに対応することが基本です。講演録「正確に学ぶ放射線 人体への影響(齋藤紀医師)」で学習してください。

(全日本民医連HP 対策本部情報>福島原発事故関連

<http://www.min-iren.gr.jp/html/menu12/2011/20110407115051.html>)

問診票、行動記録票の案は、通達文書の中でお示しています

#### <目的>

- ①住民に寄り添い、不安や期待に応える対応をすること
- ②具体的に必要なことにきちんと対処すること
- ③今後の資料として保存しておくこと

#### <流れ・方法>

- ①問診をとる
- ②行動記録を残す
- ③診察と検査を行う
- ④異常の有無をみて、今後の対応を検討する
- ⑤各種記録の保存をする